



なるほど！用紙豆知識

用紙について一般的な知識を説明します。



用紙にはこんな種類があります

DocuColor 1450 GAでは、非塗工紙（上質紙や再生紙、中性紙など）、塗工紙（キャスト紙やアート紙、コート紙など）、アプリケーション用紙（ラベル紙や封筒、フィルム紙などの特殊用途紙）が使用できます。また、用紙には厚みがあり、坪量※が目安となります。用紙の種類と坪量に適した設定をしてください。

※「坪量（重量）と連量について」を参照してください。

非塗工紙 プリンター向け、オフセット印刷機向けの上質紙や再生紙、中性紙など

塗工紙 グロス系とマット系があります。コート量は目安です。

キャスト



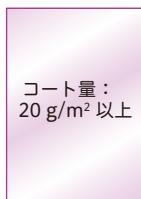
コート量：
40 g/m² 以上

A1アート



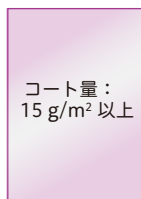
コート量：
40 g/m² 以上

A2コート



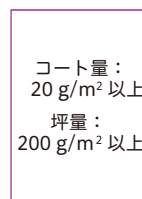
コート量：
20 g/m² 以上

A3軽量コート



コート量：
15 g/m² 以上

アートポスト

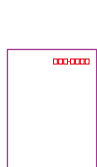


コート量：
20 g/m² 以上
坪量：
200 g/m² 以上

- グロス系
光沢があり、カラープリントに適している
- マット系
光沢を抑えてあり、写真や画像と文字を同時に印字するのに適している

アプリケーション用紙（特殊用途紙）

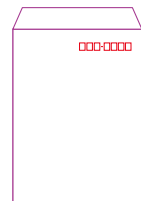
はがき



ラベル用紙



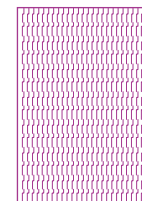
封筒



フィルム紙



エンボス紙



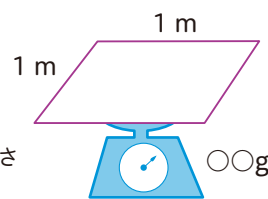
坪量（重量）と連量について

用紙の重量は「坪量」や「連量」で表します。坪量や連量は、用紙の厚さの目安になります。

「坪量」とは、用紙の面積1㎡あたりの重さのことで、単位は「g/㎡」です。

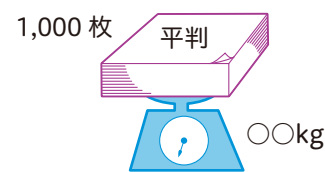
「連量」とは、平判1,000枚（一連）の重さのことで、単位は「kg」です。連量は、一般的に「四六判kg連量」が使われていますが、まれに菊判やA判が使われることもあります。

坪量



- 用紙の面積1㎡あたりの重さ
- 単位：g/㎡

連量



- 平判1,000枚の重さ
- 単位：kg

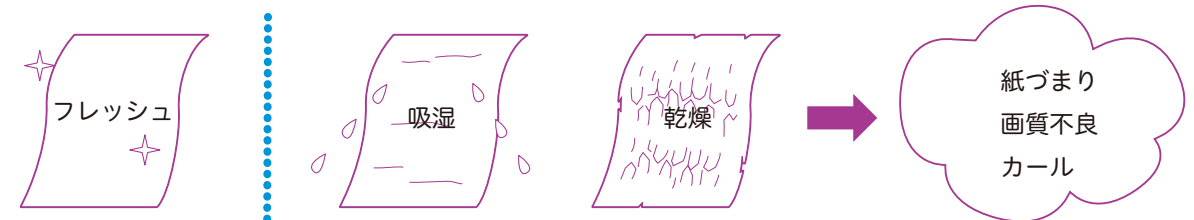
もっと詳しく！ 坪量と連量については、マニュアルをご確認ください。
『管理者ガイド』>「2 用紙のセット」



吸湿と乾燥について

用紙は植物性のパルプ繊維から作られ、外気の水分を吸ったり乾燥したりします。

紙づまりや画質の不具合、反り（カール）などの原因となるため、なるべく開封直後のフレッシュな状態でご使用いただき、保管状態にもご配慮ください。



一般的な用紙の水分量は4～6%（未開封状態）で、含水時には約10%、乾燥時には約3%まで変動します。

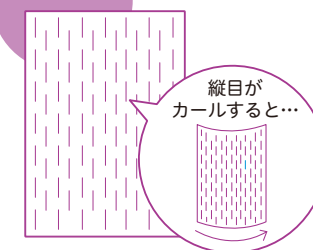


目（紙目）と裏表について

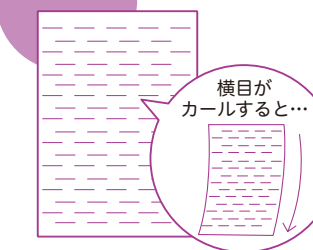
用紙の製造過程で「目（繊維の方向）」ができます。長辺と平行に目がある用紙を「縦目（T目）用紙」、短辺と平行に目がある用紙を「横目（Y目）用紙」と呼びます。用紙は湿気を吸ったり乾燥したりすると、目に沿って曲がる性質（カール）があります。用紙のコシも目に沿って強い・弱いがあります。

また、用紙（特に片面コート紙やラベル用紙など）にはおもて面とうら面があります。用紙トレイに用紙をセットするときは、目や裏表に留意してください。

縦目(T目)用紙



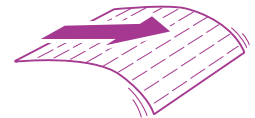
横目(Y目)用紙



目の方向と平行では・・・



目の方向と直角だと・・・



富士ゼロックスの用紙の横目(Y目)用紙には、サイズに「Y」と記載されています。詳しくは、弊社公式サイトをご覧ください。



保管と取り扱いについて

用紙は外気の水分の影響を受けやすく、また衝撃によって変形しやすいため、次のことに注意してください。

- 用紙はキャビネットの中や、湿気が少ない場所に保管してください。用紙が湿気を含むと、紙づまりや画質不良の原因になります。
- 開封後、用紙の残りは包装紙に包んで保管してください。
- 用紙は、折れや曲がりを防ぐために、立てかけずに水平に保管してください。
- 直射日光を避けて保管してください。